

# よこすか豊かな学びづくり推進プラン

令和8年度（2026年度）～ 令和11年度（2029年度）



## 横須賀市が目指す「学力向上」と「豊かな学び」

横須賀が目指す教育の姿「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり」の実現を目指し、子どもたちが将来の予測困難な社会でもたくましく学び、未来を担う力を育めるよう「よこすか豊かな学びづくり推進プラン」としてまとめました。教科等の学びを大切にしながら、学び合うことのよさ、挑戦し続ける力、共感する力などにも目を向けます。校種を超えたつながりを意識し、一人一人の発達や特性に応じてその子の成長を支え、学校・家庭・地域が一体となって、「学ぶ楽しさ」や「新しい意味や価値を自らつくり出す喜び」を実感できる新たな学びの在り方を探究します。

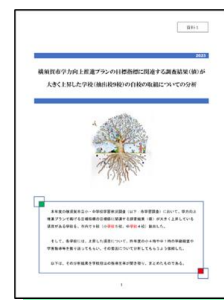
この概要版では、本プランで掲げた豊かな学びづくりを推進するための4つの目標を紹介します。

# 目標1：共に学び合う集団をつくる

「共に学び合う集団」とは、多様な仲間を大切な存在として認め合い、他者と協力しながら様々な課題に向き合っていく集団です。他者との学び合いを通して、自分のよさや可能性に気付き、一人一人が自分らしさを伸ばしていけることを目指します。そのために教師は、仲間や教師と一緒に学ぶことのよさを児童生徒が実感できるように、安心して学べる環境を整えます。児童生徒が自ら学びたくなる授業づくりを工夫して行いながら、共に学び合う集団をつくりまします。

## POINT 1

必然性のある動機付けから  
学びを自分のこととして  
捉えられる授業を計画する



## POINT 2

安心して学ぶことができる  
学級や学習環境をつくる

令和5年度の学力向上担当者会で情報共有しました『目標指標に関連する調査結果が大きく上昇した学校の分析』には、具体的な取り組みを紹介しています。本プランとあわせてご覧ください。



# 目標2：粘り強く学ぶ力を育てる

「粘り強く学ぶ力」を育てるには、難しい課題（児童生徒の力を今より一歩伸ばす挑戦的な課題）に対してもあきらめず工夫して解決しようとする経験を積むことが重要です。そのため、教師は指導計画を整え、探究的・協働的な活動を計画に位置付けます。また、学びを振り返り、見通しを立てたり、よりよいものを目指して試行錯誤したりするなど、学びを調整する場面を計画します。さらに、学習過程での教師の前向きな言葉かけやコメント、そして「がんばって解決できた」という児童生徒自身の実感は、粘り強く学ぶ力を育てます。

## POINT 1

難しい課題に対しても工夫して  
解決しようとする経験が  
できるような単元などの指導と  
評価の計画を検討する



## POINT 2

学習評価の在り方を見直す

# 目標3：社会とつながる力を育てる

情報技術の進展と情報があふれる現代社会においては、情報の信頼性を見極めて活用し、自分の考えを整理して発信する力が求められます。また、学びは学校の中で完結するのではなく、普段の生活や地域の活動などにもつながり、日常生活や社会の中で役に立つという実感に結び付くことが大切です。

そのために教師は、各学校やその地域の特色ある資源等を活用して、カリキュラム・マネジメントを行い、家庭や地域と連携して「社会とつながる力」を育てます。

## POINT 1

地域で「人・場所・文化」などと実際にふれあいながら学べる教育活動を設定する

## POINT 2

日常生活と多様な情報とのつながりを意識した指導計画を立てる



# 目標4：生活や学びの土台となる力を育てる

「生活や学びの土台となる力」を育てる上で大切なのは、周囲の大人が子どもの言葉を受け止め、気持ちに寄り添い、共感しながら励ます関わりです。こうした日々のコミュニケーションが自尊心を高め、生活や学びの土台を形づくっていきます。

子どもが多様な体験を通して、「実感を伴って豊かに経験すること」の大切さを感じられるよう、子どもを取り巻く大人がその価値を理解し、子どもが豊かに学びながら、生活や学びの土台となる力が育まれるようにしましょう。

## POINT 1

学校・家庭・地域が思いを共有する

## POINT 2

家庭と学校の学びをつなげる言葉かけや子どもとの関わり方についての情報を共有する



就学前版

横須賀市教育委員会では、家庭と連携して家庭学習の確立を目指したリーフレットを、就学前版と小学生保護者用を作成し、配付・配信しています。

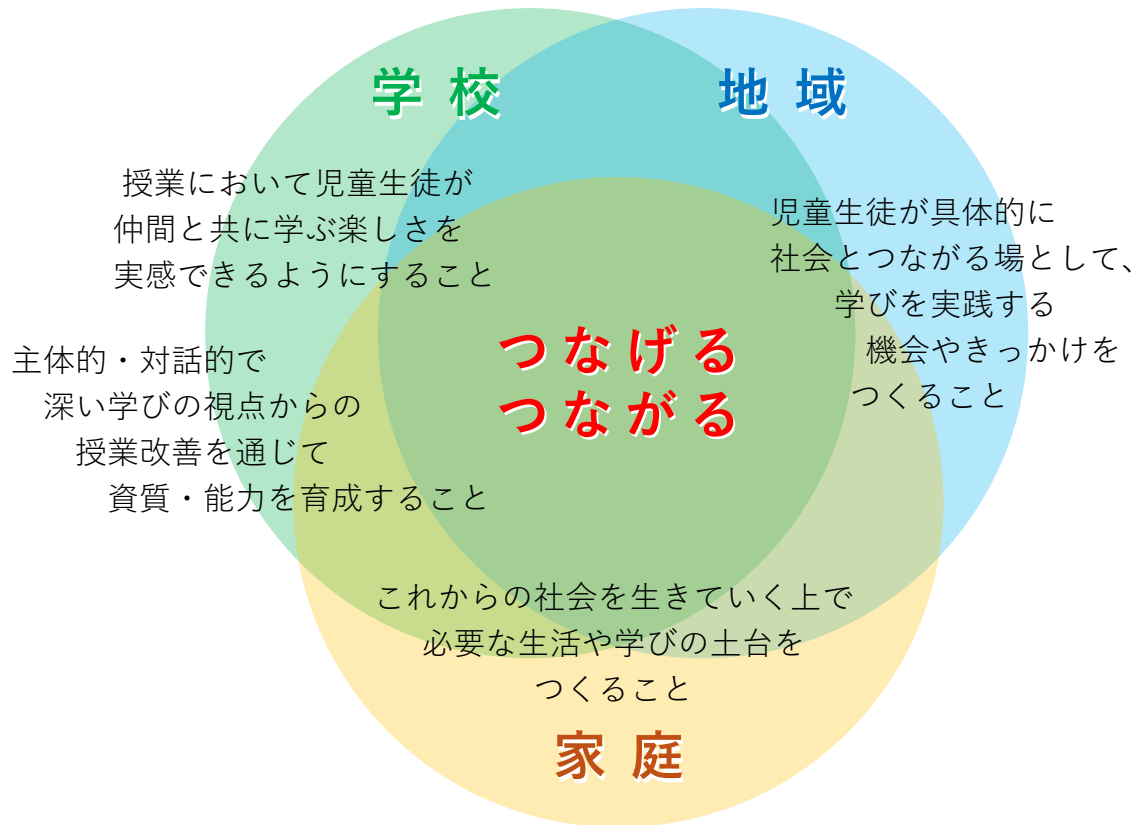


小学生保護者用



学校・家庭・地域が三位一体となって取り組むためのキーワードを

「つなげる・つながる」とし、横須賀市教育委員会がその全体をサポートします。



本プランの「4つの目標」の到達度を確認し、適切に進捗管理を行うため、本市では全市的な質問調査を実施します。学びへの意識、学級の間関係、社会とのつながり、生活習慣などを把握し、本プランの「4つの目標」の視点から児童生徒の実態を捉えます。この調査の対象は小学校2～5年生、中学校1～2年生です。さらに各学校の最終学年で実施される全国学力・学習状況調査の教科調査の結果と合わせ、認知的・非認知的な側面を含めて目標ごとに多面的に分析し、取り組みの成果と課題を明らかにします。



## 目標達成状況を分析するための質問

目標 1	目標 2	目標 3	目標 4
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	分からないことや、くわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思っていますか。

目標1及び3については、上の質問調査に加え、全国学力・学習状況調査の関連する問題の正答率にも着目します。質問調査と教科に関する調査の両面から児童生徒の実態を把握し、同一集団の経年変化に注目し、結果を比較分析します。その結果から児童生徒の学習状況を把握し、学校全体で具体的な指導改善のための手立てを講じます。

